

かいぎ NEWS

2018 **1**
No.1625



新年増大号

日立紅寒桜：日立写真連盟提供

CONTENTS

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| ■年頭所感 2～10 | ■常議員会／商工会議所の動き 23 |
| ■誌上名刺交換 11～17 | 会議所インフォメーション |
| ■新春特集：7部会座談会 18～21 | ■国・県・市からのお知らせ 24 |
| ■新年名刺交換会 22 | ■協賛広告 25～34 |



発行所 ● 日立商工会議所 〒317-0073 日立市幸町1-21-2 発行人 ● 鈴木昇

購読料 ● 200円 (購読料は会費の中に含まれています)

TEL 0294-22-0128 FAX 0294-22-0120 ホームページ <http://www.hitachicci.or.jp/>



変化への挑戦が 未来を拓く



日立商工会議所会頭 秋山 光伯

平成30年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

会員事業所の皆さまに 力士稀勢の里関の横綱昇進 会連続出場や日立化成卓球 携により、春の第55回日立 づくりに貢献することがで
は、平素より日立商工会議 やNHK朝の連続テレビ小 部の第72回国民体育大会、 さくらまつり、夏の第10回 きました。産業界では、大
所運営全般にわたりまし 説「ひよっこ」などで茨城県 平成29年度全日本卓球選手 ードリンクラリー、秋には池 手企業の統合再編を経て、
て、温かいご支援、ご協力 が全国的に注目された年で 権大会優勝など大きな感動 の川さくらアリーナを会場 新たな姿で再始動された効
をいただいておりますこと もありました。当市におき と勇気をいただきました。 第41回日立市産業祭を開 果が今後、目に見える形で
に厚くお礼申し上げます。 ましては、日立製作所野球 政をはじめ関係団体との連 催し多くの市民の方にご来 出てくるものと確信をして
さて昨年は、茨城県出身 部の第88回都市対抗野球大

や政治経済のすべてがグローバル化され、これまで離れた国の出来事としていた事柄が、寸時に世界全体に影響を及ぼすといった不確実で予測のつかない時代にあると感じております。

このような環境のなか、わが国経済は米国、欧州および中国の堅調な成長率が追い風となり、株価が上昇し、バブル崩壊後で最高水準まで引き上げられました。その様な要因から、大企業を中心に広い業種で収益の改善が見られ全体として緩やかな回復持ち直し基調との判断がされました。一方で、この成長の果実を持続的軌道に乗せるには、

全国企業の99%を占める中小企業の成長が極めて重要であり、それを後押しする施策が必須であると思います。中小企業の強みは、経営と現場が近く、環境変化に対し迅速かつ柔軟に経営の舵をとれることにあると思います。今、中小企業の喫緊の課題であります「労働力の確保」、「生産性の向上」、「事業承継」については、女性や高齢者の雇用など多様性のある働き方の導入やICTなどの積極的な導入に加え関連税制の見直しにより次代への継続発展が図られるものと考えております。

商工会議所といたしまし

ては、経済産業省の認定を受けました「経営発達支援計画」をベースに、中小・小規模企業の成長・発展を促すべく、金融や税務などの基本的な事項には、より細かで専門的な相談に対応できる伴走型支援の充実を続けてまいります。加えて、市内で開催されるイベントへの出店を促し、自社の商品・製品・サービスの新たな販路創出の機会を応援してまいります。

商業やサービス業関連では、最近の消費者の消費性向をよく見てみますと、モノを買うことよりはむしろ趣味や体験を重視する「コト消費」への傾向が強まっ

ているように思います。背景にはスマートフォンやSNSの普及があるのではと推察します。また、低価格志向も根強くあり、コンビニエンスストアの出店激化なども相まって新たな商業・サービス機能について

研究を進める必要性を強く感じております。ものづくり関連では、企業の統合やグローバル化など大きな潮流のなかで、地域中小企業の技術力を積極的に発信し、受発注に結びつける動きを今後も支援してまいります。観光振興関連では、日立市・日立市観光物産協会と連携し、本市が有する海水浴場をはじめ産業や歴

史・文化遺産等の観光資源に磨きをかけるとともに人的ネットワークづくりにも注力してまいります。

会員事業所の皆さまには、変化のスピードが速い時代のなか、茨城県の中核都市としての潜在力を活かし挑戦する気概を共にもち、未来を切り拓いてまいりたいと存じます。

結びといたしまして、会員並びに関係の皆さまのますますのご繁栄をご祈念し、年頭のご挨拶といたします。





日本商工会議所会頭 三村明夫

明けましておめでとうございます。

平成30年の新春を迎え、

謹んでお喜び申しあげます。

日本商工会議所会頭として5回目の新年を迎えました。各地商工会議所の皆様におかれましては、日頃から当所事業に一方ならぬご支援・ご協力を賜り、年頭にあたり厚くお礼申しあげます。

さて、西暦で下一桁が7の年は、過去に金融に関わる大きな危機が訪れたこともありましたが、昨年の世

界経済は、米国経済が堅調に推移し、欧州も緩やかに回復、中国では高成長から安定成長へと軟着陸に向かつており、全体的に当初の予想を上回る安定した動きとなりました。わが国経済も、潜在成長率が回復したとはいえまだ1%程度の実力の割には健闘しました。しかし持続的な成長に向けて構造改革の推進とサプラ

イサイド政策の実行がますます重要になっております。

一方で、企業を取り巻く環境は、TPP11の大筋合意や世界の貿易量の急速な回復など明るい話題があるものの、北朝鮮問題、米国の保護主義的な政策、BREXITの動きなど、先行きの不透明感も大きくなっております。日本国内では、人手不足の顕在化が、賃金の上昇にも影響を及ぼし、また、多くの中小企業における経営者の高齢化、地方経済の疲弊など、経営者の悩みは尽きなかったのでは

ないでしょうか。

このように不確実なことが多く、変化のスピードが速い時代の中では、民間企業の経営者の役割がますます重要となっており、各々の経営者が「企業は何のために、誰のためにあるのか」を考え、その中で具体的にどう行動するべきかが問われています。今年は明治維新から150年、また、東京、大阪、神戸の三つの商工会議所が設立140周年を迎える年でもあり、自らの企業経営のあり方を振り返る好機でありましょう。

日本の資本主義と民間企業の発展に多大な貢献を果たした渋沢栄一翁は、「論語と算盤」を著し、「道徳経済合一説」という理念の中で倫理と利益の両立を掲げております。その理念は商工会議所の精神的な支柱として、現代に受け継がれております。経営者の皆様には、是非とも渋沢翁の理念を自らの経営にどう活かすのか、改めて考えていただきたいと思います。

さて、大きな時代の変化の中で、平成30年を迎えるにあたり、われわれ商工会

議所が取り組むべき課題は山積しておりますが、私といたしましては、「中小企業の課題解決が日本経済の成長に直結するものである」との信念のもと、以下のような課題に重点をおいて取り組んでいきたいと考えております。

1 点目は、「人手不足の克服」です。深刻化する人手不足は、特に中小企業で顕著であり、およそ6割の企業が人手不足を訴え、この先ますます深刻化することが確実です。わが国における人手不足解消のためには、女性、高齢者、外国人などの多様な人材の活用とともに、ICTなどを活用した生産性の向上が不可欠です。商工会議所としては、会員企業への支援に必要な施策を政府の各種会議

などで要請していくとともに、支援事業の実施に取り組んでいきます。また外国人材のさらなる活用についても、時代に応じた抜本的な見直しを訴えていく所存です。

2 点目は、「事業承継」への取り組みです。昨年は、事業承継税制の抜本拡充を求める「推進大会」を開催するなど、全国の商工会議所の総力を挙げて、政府・与党へ働きかけた結果、平成30年度税制改正において、商工会議所の意見が多く盛り込まれた形で、事業承継税制の抜本拡充が実現しました。改めて税制改正の実現にご協力いただいた関係各位に厚く御礼申しあげます。中小企業の事業承継は、単なる相続の問題ではなく、世代交代による中小企業の

活性化、生産性向上、地方創生など、わが国経済の成長に関わる大変重要な課題であります。今後5年間で団塊世代の経営者30万人が70歳に到達する「大企業承継時代」を迎える中で、商工会議所として、事業承継税制をはじめ、国の施策をフル活用し、わが国経済を支える中小企業の円滑な事業承継を後押ししていく必要がありますので、引き続き、皆様のご協力をよろしくお願い申しあげます。

3 点目は、「地方創生」への取り組みです。第一次産業の活性化、およびインバウンドのみならず国内観光を含めた観光振興による地域・地方の活性化に引き続き取り組みます。さらに、2020年オリンピック・パラリンピックは、わが国

の魅力を世界にアピールする絶好の機会であり、招致から続けてきた大会成功に向けての取り組みは、商工会議所の使命の一つと捉えております。加えて、大阪・関西における2025年国際博覧会の誘致も強力に進めていくことが重要であります。

平成30年は、上述の課題を解決・克服していくための1年にしたいと考えております。「未来を拓く商工会議所」として、日本商工会議所では、全国515商工会議所、青年部、女性会などとの連携をさらに強化し、企業、地域、ひいては日本経済の持続成長の実現に向けて全力で取り組んでまいります。

今年(いぬ)は戌年



今年(いぬ)は戌(イヌ)年、慎重な心配りのもとに積極的な努力を惜しまず、開運間違いなしといきたいものです。

犬といえば、知恵・勇気・誠実の代名詞のような動物。「日本書紀」には、白犬が倒れた主人を守って餓死するまでそばを離れず、その心を哀れんだ天皇の命で、主人と並べて墓に葬られたという、忠犬八公の先祖みtainな話が記録されています。

ところで、妊産婦の帯祝い「戌の日」が選ばれるように、犬は安産・多産の象徴になっています。では、イヌ年生まれの人とはどのくらいいるかといいますが、意外に少なく全国でざっと986万人。日本の総人口を十一支別に分けてみると、11番目になります。ちなみに、最も多いのがウシ年生まれの人で約1108万人、一番少ないのがトリ年の約943万人です。

そんなわけで、十二支も一種の「生活美学」とみれば、なかなか趣深いもの。犬の特徴にあやかっ、今年もすばらしい年にしたいのですが「犬虚に吠ゆれば万犬実を伝う」のことわざもあります。

自分の心で判断するよう心がけ、軽々しい付和雷同は避けたいものです。

年頭所感


 みんなの笑顔が輝く、
ひとにやさしいまちづくり

日立市長 小川 春樹

輝かしい2018年の新春を皆様とともに
迎えることができましたことを

心からお喜び申し上げます。

秋山会頭はじめ、日立商
工会議所会員の皆様方には、
日頃から市政各般にわたり、
温かく力強い御支援、御協
力を賜り、厚く御礼申し上
げます。

した。これにより、市民サ
ービスの更なる充実と、安
全・安心のまちづくりの拠
点施設が誕生したものと考
えております。

昨年は、東日本大震災か
らの復興の総仕上げ、また
シンボルとして整備を進め
てまいりました、新体育館
「日立市池の川さくらアリ
ーナ」が1月にオープンし、
7月には市役所新庁舎も供
用を開始することができま

産業の振興においては、
7月に、県内初の地方版ハ
ローワークとして「雇用セ
ンター多賀」を開所いたし
ました。本市自らの創意工
夫で、産業振興施策と一体
となった職業紹介を行うこ
とが可能となり、地域活性
化にも大きく資することが

できるものと考えておりま
す。引き続き、市民の皆様
に寄り添ったサービスの提
供はもちろんのこと、企業

経営に寄与する職業紹介に
努めてまいります。また、
11月には、秋山会頭に実行

委員会会長を御承引いた
だき、本市の秋の風物詩であ
る「日立市産業祭」を開催

いたしました。7年ぶりに
会場を池の川に戻し、皆様
方のお力添えにより、過去

最大の出席数で開催いたし
ましたところ、2日間でも
去最高となる10万人を超え

る方々に御来場をいただき
ました。

こうした昨年一年間の市
政の推進にあたり、皆様方
から賜りました御支援、御

協力に、改めまして深く感
謝の意を表する次第であり
ます。

本年は、市政運営の新た
な目標としております「日
立市総合計画後期基本計

画」を基に、安全・安心の
まちづくりや、地方創生に
関する施策をより一層推進

するとともに、地域活性化
を牽引するために必要なイ
ンフラの整備にも、引き続

き取り組んでまいります。

とりわけ、「雇用の創出
と若者・女性の就業促進」は、
本市の課題であります人口

減少への対策としても極め
て重要であり、強力に推進
してまいりたいと考えてお

ります。今後とも、日立商
工会議所の皆様方、そして

地域の雇用と活力を担われ
ている企業の皆様方のお力
添えを賜りながら、様々な
産業振興施策を進め、若者
に選ばれるまち、みんなの
笑顔が輝く、ひとにやさし
いまちを目指して、全力を
尽くしてまいりますので、
引き続きましての御支援、
御協力をお願い申し上げま
す。

結びに、日立商工会議所
のますますの御発展と、本
年が会員の皆様方にとりま
して、御家族共々、実り多
き一年となりますことを心
よりお祈り申し上げます、新年
のごあいさつとさせていただきます。



平成三十年の新春を迎え
謹んでお慶び申し上げます。



地域に活力を！

日上市十王商工会 会長 和田 芳信

商工会議所会員事業所の

皆様におかれましても、健やかに新春をお迎えのこと
と思います。

平素より日立商工会議所の皆様には、商工会運営全般にあたり、ご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。新春にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は米トランプ大統領が劇的な就任を果たし、我が国の経済状況にどのような影響を及ぼすのかが注目

された年となりました。

そのような中、我が国の経済状況につきましては、緩やかな回復傾向であり、

国外輸出の持ち直しや雇用者所得の回復等明るい話題も出てきております。しかしながらこれは大都市圏内の話であり、目線を県内さ

らには当会があります県北地区に向けてみると、会員の九割を超える小規模事業者の皆様が、売上げの伸び悩み、後継者・人材不足

等の課題を抱えており、それを抱えきれずに廃業してしまう事業所が多く見受けられます。そのため会員数は毎年減少の一途を辿っており、会の弱体化が危惧されております。

このような状況を打開すべく、昨年は事業承継問題に着目し、講師を招いて講習会を開催する等会員の皆様の力添えになるような事業を展開して参りました。

さらには、小規模事業者支援法に基づく「発達支援計画」にも力を入れております。これは、地域の支えとなつている小規模事業者の事業の持続的発展を支援するため、小規模事業者

による事業計画の作成及びその着実な実施を支援することや、地域活性化にもつながる取組を促進するための計画を作成し、国の認定を目指すものです。

様にとって本年が良い年になりますようご祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

その計画の一つにもなっております地域ブランドのポポーアイスクリームやポポーワインはふるさと納税の返礼品にも選ばれており、地域に根付いた商品になつて参りました。未だ国の認定には届いておりませんが、この様な特産品を活かしつつ、今後も様々な視点からの計画を立て、認定を目指していく所存です。

最後になりましたが、皆

副会頭年頭所感

2018



副会頭 小峰 保 信



新年あけましておめでとうございます。

会員事業所の皆様には謹んで新年のお慶びを申しあげます。

平素より当所事業運営につきましては、ご支援ご協力を賜り厚く御礼申しあげます。

さて、昨年の我が国の経済は、緩やかに拡大している景気回復局面を迎え、株価はバブル経済崩壊後の高値を更新しました。しかし、我々中小企業を取り巻く環境は、そこまでの回復が感じられない状況が続いております。

また、製造業界ではIoTの進展などにより、これまでのものづくりから変革

の時を迎えていると感じております。

このような状況の中において、今自社で出来ること、技術を磨き、販路開拓に努めることで対応力の強化に繋がり、企業力を伸ばすことが出来ると思われま

す。そして、商工会議所が支援できる事は何かを議論しながら協力してまいりたいと思っておりますので、今後とも、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。

会員の皆様には、より良き年でありますよう、ご祈念申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。



副会頭 郡 司 洋 子



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様まにおかれましては、健康かな新年をお迎えのことと心よりお慶び申しあげます。また、日頃よりご支援、ご協力を賜り厚く御礼申しあげます。

これまでも日立商工会議所を通じて多くの出会いに恵まれてきましたが、副会頭を仰せつかったこの1年は、これまで以上に多くの方たちと、出会う機会をいただきました。感謝しております。

昨年発表の都道府県魅力度ランキングで茨城県は5年連続の最下位と残念な結果になりましたが、稀勢の里の横綱昇進やNHK朝の連続テレビ小説「ひよっこ」の放送もあり県内は盛り上がっていると感じております。

実際、一昨年の県内への観光客数は6,180万人と前年比47.6万人も増えています。その中には外国人観光客も26万人程おり、一番人気の観光地はひたちなか市の「国営ひたち海浜公園」だそうです。同園を訪れる外国人観光客は年々増えており、春のネモフィラ、秋のコキアの開花時季には東南アジアから団体客が押し寄せているそうです。

この増加する観光客や外国人を日立市の誘客に結び付けられるかは今後の日立市の活性化に繋がると思いますので、これからも会員の皆様のお知恵やご支援をいただきながら、人と人をつなぐ橋渡し役となれるよう務めてまいりたいと思います。

皆様にとって、実り多い1年でありますようご祈念申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申しあげます。

副会頭 武田 太志



新年おめでとうござい
ます。会員事業

所の皆様には、謹んで新年
のお慶びを申し上げます

昨年一年を振り返ります

と、日本を取り巻く近隣諸
国との緊張はあったものの、
上場企業の業績が改善し、
日本経済が回復基調をより
鮮明にした一年でありまし
た。しかしながら大企業と
中小企業、中央と地方の格
差も目立った年でもありま
した。私たちの住む茨城県
の北部・日立市は、東京な
ど大都市圏の経済の恩恵は
まだまだ受けられず、どち
らかという停滞気味の一年
であったように思います。
さて、今年をどう過ごし
ていくか、私自身も経営者

として個人として暗中模索

の毎日ではありますが、や
はり前に進むしか無いと思
います。優れた商品・アイ

デアを生み出して、あるい
は優れたサービスを提供し

て、日本や世界の歩みに遅
れずについていく事が大事
であると思います。

日立市には、温暖な気候
や海山の自然環境や街並み
の景観など優れた点がたく
さんあります。また犯罪が
少なく、工業都市でありな
がら、山海の食べ物に恵ま
れ住みやすいなども、その
1例です。こうした地元
の人の当たり前のことを、あ
らためて知って、気づき、
日立市のメリットを内外に
発信し続けていく事が重要
であると思います。新田次
郎原作の「ある町の高い煙
突」の映画化などは良い契
機になると思います。

こうした知ってもらふ活

動のほかに、日立商工会議
所では、様々な人のご意見
に耳を傾け、起業する方や、
地域での生産活動に努力さ
れる方の一助になるよう、

制度融資や経理事務の指導、
あるいは専門のコンサル
ティング派遣などの経営改

善プログラムなど、応援で
きる体制が既にありますの
で、こちらにもさらに親しみ

やすく充実させたいと思っ
ております。

最後になりましたが今年
一年が、会員の皆様にとつ
て充実した年となりますよ
うご祈念いたしまして、年
頭のあいさつとさせていただきます。

最後に、会員の皆様にとつ
て充実した年となりますよ
うご祈念いたしまして、年
頭のあいさつとさせていただきます。



副会頭 松山 圭吾



新年明けま
しておめでと
うございます。

会員の皆様におかれまして
は、健やかな新年をお迎え
のことと心よりお慶び申し
あげます。

また、平素からは、日立
商工会議所へのご支援、ご
協力を頂きまして、厚く御
礼申しあげます。

私も日立商工会議所の副
会頭を仰せつかり今年で2
年目となります。昨年は、
任命を受けてからあつと言
う間に一年が過ぎ、その中
で、若輩者ながら色々と経
験をさせて頂き、勉強もさ
せて頂きました。会頭はじ
め会議所の役員や会員の皆
様の温かいサポートに感謝
しております。また、私の

生涯のテーマであります

『まちなかの賑わい作り』
『市内の観光資源の発掘』
『地産地消運動』など、まだ

まだどれも道半ばですが、
今年の日立商工会議所のス
ローガンであります“変化

への挑戦が未来を拓く”を
もとに、皆様と一緒に挑戦
する気持ちを忘れずに頑張

りたいと思います。

最後に、会員の皆様に
とって、今年1年が、より
良き年でありますように、

ご祈念申し上げ、年頭のご
挨拶とさせていただきます。



年頭所感

新春のおよろこびを申し上げます。

本年が会員の皆様にとりまして幸多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて、当女性会では今年

日立商工会議所女性会

会長 弓野孝子



2月に、創立40周年の記念式典・祝賀会を予定しております。昨年より準備を進

女性会では華やかで精力的な組織であると改めて感じました。

める中で、諸先輩方の築きあげた40年の歩みを通して様々なことを学ぶことができました。そして今も昔も

当女性会では、本年も精力的に事業を実施していきたいと考えております。女性ならではのしなやかな感

日立商工会議所青年部

会長 本間恒弘



新年おめでとうございます。

昨年、当青年部では色々な事業を実施してきました。日立市の賑わいづくりとして、

「家族例会」など地域活動の一助となるため、さらに、会員の連携力強化となるため取り組んで参りました。

結果、「諸先輩・現役部員」「日立市の地域・企業・家族」の支えがあったからこそ充実した活動ができたと確信しております。今後も部員一同、一

「常陸ノ国グルメフェス」「日立さくらまつり花見茶屋出店」、当青年部員の研鑽として「ブラッシュアップ勉強会」

このような事業を実施した経緯といたしましては、私自身会長を担うにあたり、今までの青年部活動を振り返った

丸となって地域問題に取組み、豊かで住み良い日立市へ寄与していきたいと考えております。

性で、時には古人を師とし、時には時代の先端を学んでいければと思います。またそれらを実施することにより、会員の皆様がより一層輝く知恵となれば、幸いです。

本年もどうぞ当女性会へのご協力とご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

す。当青年部を支えていただいたことへの感謝と地域や関係団体等への恩返しを念頭に邁進していく所存でございます。

すので、今後とも、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様にとりまして、より良い年でありますよう心よりご祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

歳時記

雑煮

正月に雑煮を食べる風習は、ほとんど全国にあります。どちらかというと、東日本では切り餅を焼いて、すまし汁に入れて雑煮にし、西日本では、丸餅を焼かずにみそ仕立てが多いといわれています。とはいっても、地域により家によって、その作り方はまちまちです。

正月三が日をすまし汁、みそ仕立て、汁粉と日替わりにしたり、笹の葉につつんだアメを入れてアメ雑煮にしたり、汁なしの雑煮があったりと、変わった風習もあります。

昔は正月に、雑煮のもちを年の数だけ食べるのを楽しみにしていた子供もいました。いまは、ほかに「ごちそうがある」、そうした子供は少なくりましたが、正月の雑煮を食べて祝う楽しみは変わりません。

